

全化学物質

国際機関や国内外の公的機関が公表した報告書等において内分泌系への影響、内分泌系を介した影響または生態影響等が懸念された物質
 化審法・PRTR法・環境中や食品中濃度に関する各種規制・基準などに記載された物質 等

検討を考慮する物質 (作業物質)

[天然及び合成ホルモンを含む]

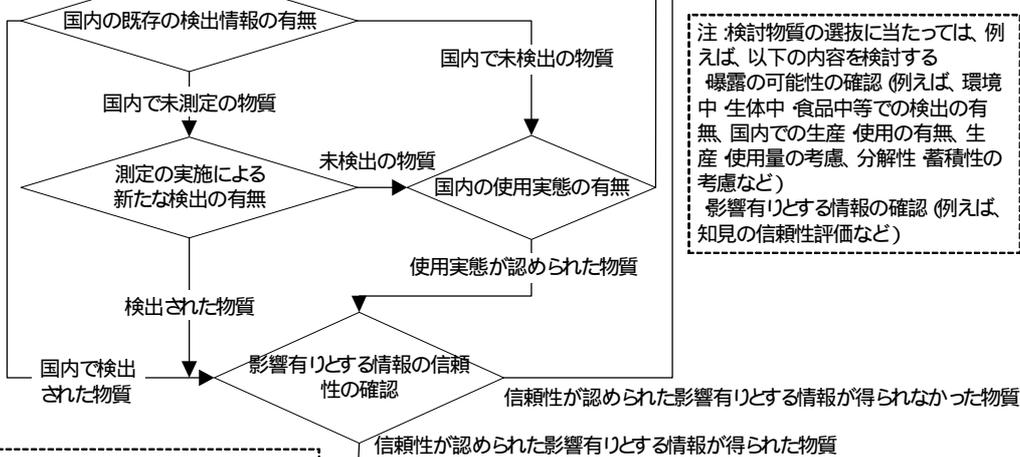
国内で未検出で使用実態が認められなかった物質群及び信頼性が認められた影響有りとする情報が得られなかった物質群

現時点では、明らかな内分泌攪乱作用が認められなかった物質または現時点では、曝露の可能性が低く現実的なリスクが認められなかった物質

信頼性が認められた新たな知見により再検討

[検討物質の選抜]

使用実態が認められなかった物質



注 検討物質の選抜に当たっては、例えば、以下の内容を検討する
 曝露の可能性の確認 (例えば、環境中・生体中・食品中等での検出の有無、国内での生産・使用の有無、生産・使用量の考慮、分解性・蓄積性の考慮など)
 影響有りとする情報の確認 (例えば、知見の信頼性評価など)

注 影響有りとする情報とは、生殖器、甲状腺、下垂体等の内分泌系への影響、内分泌系を介した免疫系や神経系への影響、生態影響等の影響が認められたとする情報を示す

検討物質

総合的な判断で現時点では明確な内分泌攪乱作用が認められなかった物質

検討 (試験等の実施)
 [国際的な知見の共有や国内での他制度による検討の結果]

総合的な判断で内分泌攪乱作用が認められた物質
 既存の有害性等の知見と比較して、より高い濃度(用量)においてのみ内分泌攪乱作用が認められた物質または曝露の可能性が想定される濃度(用量)と作用の認められた濃度(用量)との乖離が比較的大きい物質

既存の有害性等の知見と比較して、より低い濃度(用量)においてヒト以外の生物種に対して内分泌攪乱作用が認められた物質または曝露の可能性が想定される濃度(用量)と作用の認められた濃度(用量)との乖離が比較的小さい物質

作用の認められた濃度(用量)と既存の有害性に関する知見等との比較

ヒト以外の生物種においてのみ内分泌攪乱作用が推察された物質

ヒトにおいて内分泌攪乱作用が推察された物質
 既存の有害性等の知見と比較して、より低い用量においてヒトに対して内分泌攪乱作用が認められた物質または曝露の可能性が想定される用量と作用の認められた用量との乖離が比較的小さい物質

化学物質検討フロー図 (案)